

# 未来へ受け継ぐ 伝統文化(祭り)



科学技術が発達した現代と比べ、生活基盤を自然に頼っていた時代には、人の力ではどうにもならない恐怖や不安から身を守るために神仏への信仰が盛んでした。西原村でもさまざまな祭りや信仰が伝承されています。



**お法使祭り**  
現在の西原村河原地区、益城町、菊陽町の12集落にまたがる祭りです。毎年10月30日に行われ、神様が集落を1年交代でまわります。祭りの1年間は鳥の殺生が禁じられています。これには神様が降臨された時に霧で迷い、鶏の鳴き声に助けられたという言い伝えがあります。この祭りが有名なのは、祭祀圏が広いこと、賑やかなことが好きな神様ということ、田畑や道に神輿を投げたりするからです。

## 八王社遷宮祭

江戸時代中期の大水害により、布田地区にあったお宮が危機的な状況となりました。そこで、50年に1度、神様に布田地区へ里帰りしていただく約束で、宮山地区の現在の場所に移されたことで、祭りがはじまったそうです。最近では、昭和56年に250年祭、平成18年には275年祭が行われています。25年周期に改めたのは、伝統の継承のためです。

